

かかりつけ医へ通院し続けられる体制づくりを考える

通院困難患者支援フォーラム

～外来受診支援から考える在宅医療～

日時 2024年9月7日(土)14:30～16:00

場所 札幌学院大学 新さっぽろキャンパス2階 多目的ホール
札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1
(地下鉄東西線 新さっぽろ駅 1番出口より徒歩1分)

定員 会場150名 オンライン500名

対象 医療・介護・福祉関係者・団体、学生等

内容

◆ 実践報告

北海道における通院困難患者の実態と課題

通院困難患者支援専門部会 部会長 石田 潔氏 (小樽中央病院)

通院困難者におけるケアマネジメントの対処と課題

奏笑ケアプランセンター 主任介護支援専門員 菊地 麻希氏 (札幌市手稲区)

訪問看護ステーションにおける通院継続のための活動

北海道訪問看護ステーション連絡協議会 会長 今野 好江氏
(訪問看護ステーション禎心会東)

医療資源の確保の観点からの訪問診療と外来通院

医療法人財団老蘇会 静明館診療所 医師 大友 宣先生

◆ 総合討論

地域における介護サービスの通院支援体制づくりのみならず、医療機関の外来受診時における患者対応の充実や、通院支援のための移動支援など、多岐に渡る協力が必要になることを話し合います。

実践報告者(4名)

司会：北見市医療・介護連携支援センター 関 建久氏

コーディネーター：新潟医療福祉大学 小出 直氏 (前 北海道松前町立松前病院 勤務)

主催：北海道医療ソーシャルワーカー協会 通院困難患者支援専門部会

後援(予定)：北海道、北海道医師会、北海道介護支援専門員協会

北海道訪問看護ステーション連絡協議会

札幌学院大学 社会連携センター

フォーラム趣旨

通院困難とは身体的・経済的要因、介護サービスの不足、公共交通機関の未整備や通院先が遠方などの社会的理由で通院が困難な状態やその患者・利用者が抱える課題です。

通院困難(患者)の発生要因はさまざまですが、その解決の1つに通院できなければ訪問診療を受けるという選択があります。すべての通院困難患者が訪問診療を受けられればよいのですが、医師が偏在する道内の医療資源では充足することが困難です。その結果、通院が困難になると地域の訪問診療が受けられる施設への入居や札幌など家族の住む都市部への転居が行われています。「住み慣れた場所で暮らし続ける」という地域包括ケアシステムの理念に照らし合わせれば「通院できるならばできるだけ、かかりつけ医へ通院すること」を実現することが重要となります。

つまり通院困難の問題は在宅医療の課題に含まれています。通院できる体制と工夫を地域の関係者で創り上げられれば、限られた訪問診療の資源であっても多くの住民が住み慣れた場所で暮らし続けられます。

当協会では専門部会におけるこれまでの活動を通じ、通院困難という課題をさらに道内の医療・介護関係者と共有し、課題解決へ向けた取り組みを前進させるべく通院困難患者支援フォーラムを開催することと致しました。

申し込み(参加費無料)

以下のURLをクリックして申し込み下さい
Googleフォームが開きます。

[締め切り令和6年8月30日]

<https://forms.gle/sKpXFBoc3FtKqsbr7>



問い合わせ先

北海道医療ソーシャルワーカー協会

業務執行理事 石田 潔

勤務先：小樽中央病院

TEL：0134-21-2222

Mail：onch-msw@ninus.ocn.ne.jp